団員、賛助出演者の音楽技術向上と合唱文化継続の意欲を生み出した

合唱団こぶ

活動の目的

地域の人々に感動を与える合唱音楽文化の広がりと、地域での継続的、発展的な合唱活動を担う次世代を育成し、社会貢献することを目的とする。

活動の内容及び経過

本団体独自の定期演奏会に県内の若い合唱団、及び有志を募り就実大学・就実短期大学、岡山大学、くらしき作陽大学、一般合唱団「Flügel」のメンバーが集まった。単独ステージに加え合同演奏のステージを持ち、その練習に外部指導者を招きレッスンを重ね各自の合唱力の向上を図った。

また演奏会開催の意義や、プログラム構成、外部との連絡など演奏会づくりを協働し、音楽づくりだけでなく人と人が協働する意義を示していった。

活動の成果・効果

当日の演奏会は800人の観客を動員した。若い合唱人を育成する主旨に合わせて西日本豪雨災害チャリティーコンサートの意味をもっての演奏会であったため、演奏と映像をコラボレーションした平成を振り返る「時代」では多くの観客の感動を誘った。募金は復興支援金として総社市へ寄贈した。

この演奏会での出会いは地域のジュニアの合唱活動を育成する動きへと発展し、その後も有志で実行委員会を立ち上げ演奏会の準備を重ねていき、2019年9月29日には市内外の小中学生、県内高校生、大学一般の公募メンバーに加え、神戸市からの賛助出演を含め、総勢300人がステージに立つ演奏会「Prayer～歌でつなぐ未来へのコンサート～」へと発展した。

以後もこぶの定期演奏会への地元小中学生、指導者の参加を企画したが、コロナ感染防止対策のため、プログラム完成までしていたが、中止とした。

今後の課題と問題点

2019年の定期演奏会がもたらしたものは、地域での合唱活動の在り方と実践を求める強い思いであった。ジュニアから大人までの合唱活動の連続と広がりはどうしたら可能になるかを話し合い、2020年3月の合唱団こぶの定期演奏会と9月のチャリティーコンサートを連動していく企画をした。市内50人の小中学生と一般指導者30名の参加を得て、2020年の定期演奏会へ向けて練習、活動していたが、直前で中止とした。

その後4か月間、合唱団こぶとしての活動を停止していたが、7月からコロナ感染防止対策をした活動を再開している。しかし、外部である小中学生との連携はしていない。また、本番というステージでの演奏は望むことができない状況であり、団員のモチベーションの維持が懸念される。

●代表者：大山敬子　●所在地：総社市中央
●TEL：0866-92-8371
●URL：http://www.tan-kob.net/
●設立年：1992年　●メンバー数：43名